

さいたま ここに人あり

(肩書きは掲載時点当時です)

1994年10月「明日を創る 埼玉」創刊（高校教育研究会議より受け継ぐ）創刊から8号まで
1998年9月より「さいたまの教育と文化」に改題（企画拡大）

- 9号 父親と教師から学んだ 秩父人の気骨とおおらかさ 金子兜太（俳人・俳句協会会長）
10号 演劇は一人ひとりが生かされ 捨てるところがないんです 清水マリ（声優・劇団むかご主催）
11号 先生がたった一つほめてくれたのが絵だったんです 梅原麦子（布絵作家）

1999年

- 12号 世の中すてたもんじゃない 社会も人間もまだまだ 山本おさむ（漫画家）
13号 あなたに会えてよかった 唐土久美子（歌手）・森谷明仙（書家）
14号 この自然界には無駄なものは何もない 八木原章雄（農民詩人）
15号 習う前に、人の仕事を見ることですね 久保昌太郎（紙すき職人）

2000年

- 16号 「人生とは道草にあり」と地球漫遊 106 カ国 金井 重（旅人）
17号 人間は誤る能力を持っているんですよ… 太田 堯（教育研究者）
18号 伝統の技とオリジナリティを 林家二楽（紙切り芸人）
19号 “いま教育に登山を” のすすめ 森田千里（登山家）vs 山本宗彦（登山家・教師）

2001年

- 20号 子どもの本って すばらしい 曾我貞子（児童文学者）
21号 職人の姿が見えなくなった 和田三郎（大工棟梁）
22号 生きることと短歌 水野昌雄（歌手）
23号 秩父事件を歴史画に 根岸君夫（画家）

2002年

- 24号 アフガンで難民支援 吉住 登（医師）
25号 二人で育む ていねいな音づくり 太田真季（歌手） 後藤寿美（ピアニスト）
26号 民衆の楽天性と断固たる抵抗を描きたい 神山征二郎（映画監督）
27号 水泳選手・コーチ生活から勉強の面白さ必要性を学ぶ 東島新次（日本水泳連盟常務理事）

2003年

- 28号 「埼玉の教育 100 年」を出版 埼玉の生活の証しとして 川合 章（当研究所前所長）
29号 サイエンスが面白くなる天体のロマン 鈴木文二（教員・小惑星名付け親） 草刈英郎（教員・日食マニア）
30号 よい要素が盛りだくさん 将棋を子どもたちの中に 中井広恵（女流棋士）
31号 義務教育と医療は無料が憲法の精神 松本光正（医師）

2004年

- 32号 蛇口の向こうには森がある 山口民弥（大滝村村長）

- 33号 『囚われのイラク』で何が…戦争ジャーナリズムを考える 安田純平(フリージャーナリスト)
 34号 今を生きる高校生 一生徒会に、将棋に、平和活動に一 和井田祐司(高校生・将棋全国大会優勝)
 35号 草の根の民主主義を育むために 一社会教育の分野から一 佐藤一子(東京大学教授)

2005年

- 36号 乙女たちの沖縄戦 一「ひめゆり」一 与那覇百子(「ひめゆり」語り部)
 37号 内部被曝の脅威と現代 肥田俊太郎(医師・被団協相談理事長)
 38号 生き方を支えてくれた 「103粒の真珠の首飾り」と子どもたち 板倉三重(元教師)
 39号 わたし・教師と戦後責任 高橋哲哉(哲学者・東大大学院教授)



肥田俊太郎さん

2006年

- 40号 「愛国心」のなかみを隠す教育基本法改悪案 藤田昌士(子ども人権埼玉ネット代表)
 41号 42号 43号 特集にかわる

2007年

- 44号 個性的である限りは、お互いは競争相手ではない 小川原良征(神亀酒造7代目)
 45号 荒川源流 奥秩父・中津川に生きる 山中進・三千恵夫妻(民宿 中津屋・大滝村)
 46号 学びで拓く くらしと地域 片野親義(日本公民館学会副会長)

2008年

- 47号 幻の肉 古代豚 おいしさを地域とともに 白石宗一・光江夫妻(養豚業白 石農場・美里町)
 48号 いまこそ、貧困の連鎖を断ち切るとき 川井理砂子(弁護士)
 49号 たくさんの人にサポートされ 一デフリンピック日本代表 望月翔太(立正大学4年)
 50号 地域に 業界に輪をあげ 一工務店の生き残りをかけたよびかけ一 鈴木芳晴(あかつき建設社長)

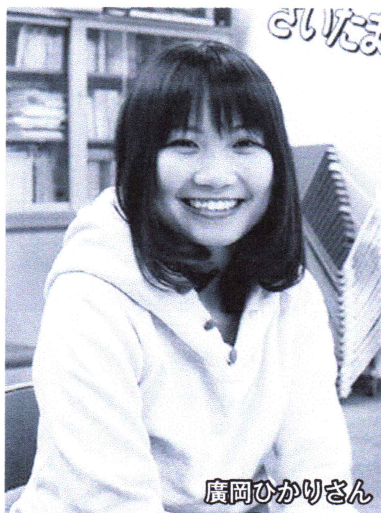
2009年

- 51号 HAGE&WAZUJKA 組合活動に笑いがほしかった 奥田直和・滝沢芳昭(所沢市教組)
 52号 普通のサラリーマンが野宿生活 一貧困は自己責任ではない 藤田孝典(NPOほっとポット代表理事)
 53号 平和をつくる力をはぐくみ 担い手を育てる 二橋元長(「戦争展」事務局)
 54号 国民の命より企業の儲け…教育も同じ 本田 宏(済生会栗橋病院副院長)

2010年

- 55号 人間は楽しく生きていけなくちゃ そのために世の中をかえる 田中美智子(元衆議院議員)
 56号 『しっかりした子』が不登校に 堀口 恵(スクールボランティア)

- 57号 子ども時代をどうすごす一花の森こども園 葭田あき子 (園長)
- 58号 心をゆさぶられ人とのつながりを大切にして 中平順子 (さいたま子ども文化研究所)
一紙芝居を通じて
- 2011年
- 59号 自転車を通して地域・国際貢献を「Re:さいくりんぐ」 廣岡ひかり (埼玉大学生)
- 60号 コドモのからだどころ 野井真吾 (埼玉大学准教授)
- 61号 みんなのよりどころ「私たちの聖天さま」 鈴木英全 (妻沼 歓喜院院主)
=復元された本殿「聖天堂」
- 62号 若者を育てたい 全国、海外にも広がる共感の輪 太田直子 (「月明かりの下で」監督)
- 2012年
- 63号 いのち支える 食へのこだわり一米工房ひろおか 廣岡昭一 (店主・浦和民商会長)
- 64号 原発事故 二度とだまされない 自分の頭で判断する力を 雪田慎二 (医師・医院副院長)
- 65号 地域に支えられ地域を支える豆腐で 中村幸治 (工房事業所長)
仕事起こしをめざす所沢 102 ☆工房
- 66号 「太陽の家があるから大丈夫」と言われる施設に 松本 哲 (川口太陽の家所長)
- 2013年
- 67号 地域のつながりが力になって 小池奈津夫 (草加・元気っ子クラブ代表理事)
- 68号 コカリナで全国各地を励まし続けて 黒坂黒太郎 (コカリナ奏者)
- 69号 自然豊かな「子どもの楽園」を守りたい 安藤聡彦 (「トトロのふるさと基金」理事長)
- 70号 「ホームレスによる農業」から広がる 菅田紀克 (NPO さいたま自立就労支援センター)
ユニークな地域づくりの輪



廣岡ひかりさん



太田直子さん



姜尚中さん

2014年

- 71号 特集にかわる
- 72号 同僚同士、スクラム組んで 姜尚中 (聖学院大学学長)
- 73号 次世代が戦争に送られないために行動する責務がある 大倉 浩 (埼玉弁護士会会長)
- 74号 子どもたちが「生きること」を励ます クミコ (歌手)

2015年

- 75号 いきいきとした”生”な人間の魅力を俳句に 金子兜太 (俳人)
- 76号 未来への希望は教育 本田 宏 (前栗橋病院院長補佐)
だからこそ教師は力をつくしてほしい
- 77号 子どもの育ちを大人がどう保障するか 沖田直樹 (子ども・若者支援ネットワーク)
- 78号 心の中に平和の砦を 江田伸男 (高校教師・秩父ユネスコ代表)
一地域に根ざした秩父ユネスコ活動

2016年

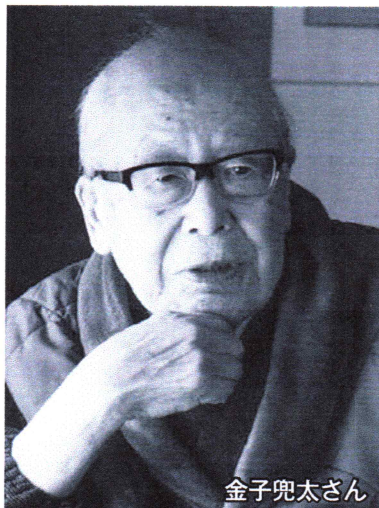
- 79号 たたかうための知恵と表現を巡って 神田香織 (講談師)
- 80号 安心できる仲間のいる学校に 土井一博 (カウンセラー)
まず、人間として豊かな生活を
- 81号 子ども時代をどうすごす一花の森こども園 葭田あき子 (園長)
- 82号 心をゆさぶられ人 とのつながりを大切にして 中平順子 (さいたま子ども文化研究所)
一紙芝居を通じて

2017年

- 83号 学校だけではない学びの場を 佐藤一子 (「九条俳句」市民応援団世話人)
いま、大人の「学習権」がとわれている
- 84号 平和こそ宝～わたしの歩んだ道 堀田シズエ (埼玉県被爆者の会会長)
- 85号 地域にねざし、たくさんのつながりで 山田智之 (九条の会事務局長他地域活動役員)



クミコさん



金子兜太さん



土屋匠三さん

2018年

- 86号 「子どもの先には必ず大人がいる」の思いで 井島美由紀 (狭山市社協職員・ひまわり倶楽部代表)
 87号 「命のメッセージ」戦争の真実を次の世代に伝え続けて 野村路子 (ノンフィクション作家)
 88号 地域でくらす外国人とともに 石井ナナエ (ふじみの国際交流センター所長)

2019年

- 89号 チームなって挑んだ「疎開保育園」 平松恵美子 (映画監督)
 90号 学校、家庭もうひとつの居場所 土屋匠宇三 (彩の国子ども若者支援ネットワーク)
 『貧困、可視化したアスポートの9年』
 91号 いま、ここにある命を救いたい 岡村幸直 (原爆の図・丸木美術館学芸員)
 丸木夫妻の作品を若い世代に

2020年

- 92号 「いのち」テーマに 日常の光を描きたい 指田 和 (児童文学作家)
 93号 つながりづづける「居場所」を地域に 湯浅 誠 (社会活動家・東大特任教授)
 94号 人権を実感として学ぶ教育を 田代美江子 (埼玉大学教授 副学長)

2021年

- 95号 子どもと共に成長する教師に 山口和孝 (埼玉大学名誉教授・前当研究所所長)
 96号 「守られた命」被爆体験を次世代へ 土田和美 (被爆体験証言活動)
 97号 保護者とつながり、ともに教育・子育てを 吉田雅人 (「よしだ教室」主催)

2022年

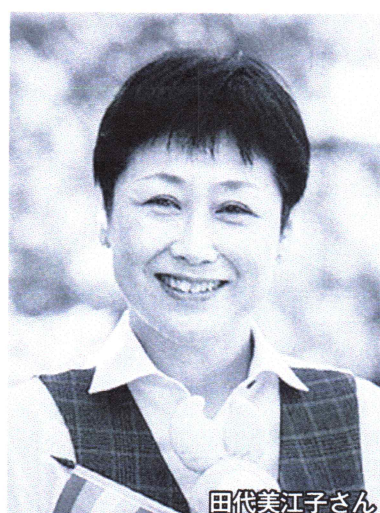
- 98号 卒業後の障害者のことを知ってください 加藤木貢児 (障害児者施設長)
 99号 沖縄の文化とともに歴史を伝える 山田ちづこ (カフェギャラリー「風南」)
 100号 「貧困の連鎖」解消のために 一人ひとりとの対話が生み出す「希望」 白鳥 勲 (彩の国子ども・若者支援ネットワーク)



指田 和さん



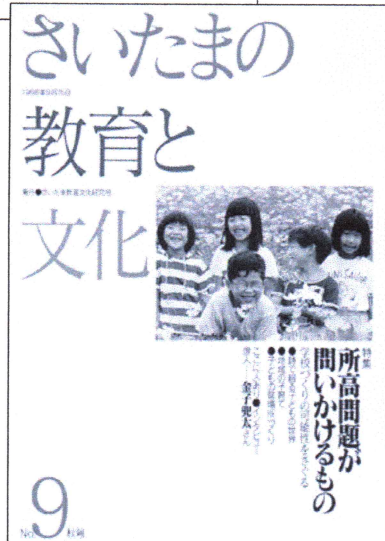
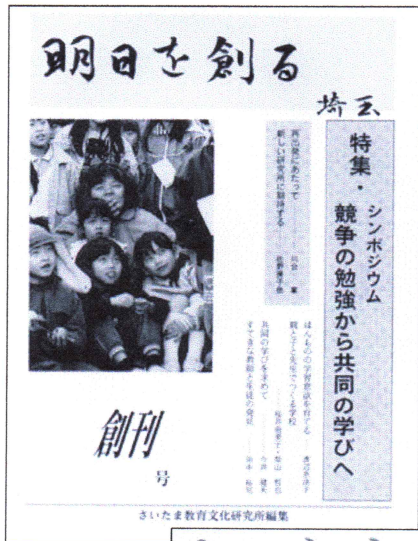
湯浅 誠さん



田代美江子さん

「さいたまの教育と文化」 特集

	「明日を創る 埼玉」1994年10月創刊 シンポジウム 競争の勉強から共同の学びへ
1995年	
2	子ども世界をひらく—子どもの権利条約・平和—
3	教師が育つとき
1996年	
4	“いま”輝いて生きる
5	地域に生きる子ども・青年
1997年	
6	地域から学びの創造を
7	①足もとからの教育改革 ②上からの「教育改革」をめぐる
8	子どもとともにつくる授業
1998年 改題「さいたまの教育と文化」	
9	所高問題が問いかけるもの
10	子どもの困難とともに生きる
11	「学び」が成立しにくくなった！授業づくりの模索



A5版に

1999年	
12	いま教師として生きる喜びと苦悩と…
13	不況下の地域・教育
14	平和を学ぶ子どもたち
15	さいたまの子どもたちは、いま
2000年	
16	中学生の進路を考える
17	子どもの読書年をみのりあるものに
18	17歳の「非行」問題とどう向きあうか
19	①教育研究・教育実践 教育研究会より ②教育改革国民会議批判
2001年	
20	青年教師 大いに語る 子どもたちの「荒れ」にどう立ち向かうか 子どもの発達とことばの教育
21	埼玉の障害児教育の いっそうの充実・発展を願って
22	①教育課程づくりの視点 ②教育基本法を現場に生かす
23	① 2001年度教研集会 ② 2002年度、わが校の教育課程づくり
2002年	
24	私の、わが校の教育課程づくり 就学相談、就学指導の改革
25	学校五日制と子ども・学校・地域
26	教育課程と授業づくり
27	「高校入試改革」アンケート 押しつけの「心のノート」
2003年	
28	①押し付け「心のノート」批判 ②教育基本法を現場に生かす
29	①教育特区から情勢を読む ②開かれた学校づくりと学区自由化
30	①不登校の子どもたちとどう向き合うか ②性教育バッシングが意味するもの
2004年	
31	10周年によせて 私と教育文化研究所 ジャーナリストから見た「現代の危機」と その克服の方向
32	転換期を迎えた障害児教育
33	座談会 教師、子どもと教育実践
34	子どもの悲鳴が聞こえる
2005年	
35	教育内容、教材、子どもと授業づくり
36	①教師のしごと ②教育改革を考える
37	固定化される階層化の中の子どもたちと教育
38	若い教師のために —子どもと共に学び成長し 続ける「夢」と「ロマン」を
2006年	
39	学校の役割
40	共に学び、生きる集団づくりの現在
41	鶴ヶ島の教育改革 市民参加・学習・協働 開かれた教育改革への挑戦

42	①若者と労働— 努力してもむくわれない社会でいいのか ②二期制のおしつけ 白紙撤回させた —秩父・教職員・市民のたたかい—
2007年	
43	地域と学校に希望を
44	教師の役割、仕事ってなに! 教師になった みなさんへ
45	①一斉学力テスト、学校選択制を考える ②いま、埼玉の教育現場で
46	①地域で学びを積み上げる ②チームワークを壊し、教育力の低下をまねく
2008年	
47	①埼玉・農に生きる 農を考える ②食と農の教育実践
48	①新しく教師になった皆さんへ ②学童保育を考える
49	①共に生きる意志を育む道徳教育の創造を ②教員免許更新制を考える 矛盾・問題点・疑問
50	①教職員の労働とメンタルヘルス ②貧困を見据える
2009年	
51	ネット社会で生きざるをえない子どもたち
52	子どもとともに「今」を生きる
53	子どもの貧困に立ち向かう
54	教育現場で増え続ける「非正規雇用」 —教職員の誇りと尊厳を奪う「非常勤化」
2010年	
55	障害者自立支援法違憲訴訟 —「勝利和解」
56	新任者のみなさん 1学期おつかれさまでした
57	隣国との友好を深める —韓国併合 100年
58	特別支援学校・学級の現状と課題
2011年	
59	21世紀に生きる子どもたちに ふさわしい教科書を

60	おつかれさま 新たに教職員になったみなさんへ
61	ともに創る みらい —ジェンダーの平等と教育
62	子ども期をとりもどす
2012年	
63	定時制・通信制教育の今
64	新しく教職員になったみなさんへ
65	それでも明るく前向きに —「教職員の持ち味」を生かす—
66	「いじめ」を考える
2013年	
67	発達障害のこどもと生きる 学級・学校づくり
68	おつかれさま 新しく教職員になったみなさんへ
69	子どもの貧困～大人・社会がどう寄りそうか
70	道徳教育にどう取り組むか
2014年	
71	これでいいのか 日本の「奨学金」
72	おつかれさま 新任教職員のみなさん
73	憲法を地域に生かそう みんなのつどい 報告
74	—憲法を地域に生かそう みんなのつどい 教育子育て九条の会
2015年 (77、78号 特集休み)	
75	子どもたちに よりよい教科書を
76	新たに教職員になった みなさんへ
2016年	
79	夜間定時制高校と「給食」
80	お疲れさま 新たに教職員になられたみなさんへ
81	18歳選挙権を考える
2017年 (82、84、85号 特集休み)	
83	新たに教職員になったみなさんへ
2018年 (87号 特集休み)	
86	おつかれさま 新たに教職員になったみなさんへ
88	生き生きと働き続けるために
2019年	
89	おつかれさま 新たに教職員になったみなさんへ
90	不登校・ひきこもりがちな子ども・若者と向き 合って
91	養護学校義務制 40周年
2020年	
92	おつかれさま 新たに教職員になったみなさんへ
93	新型コロナ禍にどう向き合うか
94	地域の食と文化を支える
2021年	
95	お疲れさま 新たに教職員になられたみなさんへ
96	学校統廃合問題を考える
97	主権者を育てる教育
2022年	
98	お疲れさま 新たに教職員になられたみなさんへ
99	ジェンダー平等と教育
100	機関誌 100号発刊に寄せて



再び B5 版へ